



出水小学校 学校だより

そったく き  
啐啄の機 R7 No. 17

令和8年2月27日(金)

熊本市立出水小学校

校長 : 横山 幸生

## 5年生集団宿泊教室 ～「規律・協同・友愛・奉仕」を学ぶ～

2月3日(火)から5日(木)の2泊3日の日程で、5年生は4月にリニューアルした金峰山自然の家「ヤマガラビレッジ」で集団宿泊教室を行いました。

主なプログラムは1日目が「ウォークラリー」や「キャンドルの集い」、2日目は「岩戸観音周遊ハイキング」や「カレー作り」、3日目は「ネイチャービンゴ」などです。いずれも、班で協力し合って、目標を達成する活動です。途中でトラブルがあっても、自分たちで話し合って解決しなければなりません。互いに意思の疎通を図りながら、「次にどうするか」をみんなで決めていくことが求められます。最初のうちは、コミュニケーションがぎこちなかった子どもたちですが、活動を進めていくうちに、互いに声を掛けあったり、助け合ったり、励まし合ったりと協力して行動できるようになりました。

また、食事の準備や片付け、部屋の整理や掃除も、日を追うごとに、班で声を掛け合って役割分担をしたり、遅れている仲間や他の班を手伝ったりする姿が見られるようになってきました。

この2泊3日の集団生活を通して、時間やルールを守るといった「規律」、仲間と協力し合う「協同」、友達を思いやる「友愛」、人のために進んで働く「奉仕」の精神を育むことの大切さを実感してくれたと思います。

最終日の解団式ではみんなの表情から「達成感」にあふれていることが伝わってきました。この「達成感」は、仲間と力を合わせて、一人ではできないような課題を達成したときに、初めて味わえるものです。この集団宿泊教室の体験を通して、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」行動することの大切さやすばらしさを学ぶことができました。5年生の子どもたちは、2泊3日でしたが、見違えるほどたくましくなりました。出水小学校の頼れるリーダーとして活躍してくれることを期待しています。

## 水俣に学ぶ肥後っ子教室

「水俣に学ぶ肥後っ子教室」は、県内全ての5年生を対象に、水俣病への正しい理解を図り、差別や偏見を許さない心情や態度を育むとともに、環境や環境問題への関心を高め、環境保全や環境問題の解決に意欲的に関わろうとする態度や能力を育成することを目的に実施されています。

本校の5年生も2月12日(木)に水俣病資料館や環境センターを訪問し、そこで、水俣病の語り部の方の講話を聴いたり、環境問題について学んだりしてきました。

語り部の方からは「人のうわさ話をそのまま信じるのではなく、しっかり自分で確かめることが大切」というお話がありました。予断や偏見にとらわれずに真実を自分で確かめることの大切さを教えていただきました。

5年生の子どもたちは、語り部の方や環境センターの方の話を真剣なまなざしで聴き、資料館の展示物などを熱心に見学していました。帰り際に環境センターのセンター長さんから「出水小学校の子ども達の話や学ぶ姿はとてもすばらしいですね」とお褒めの言葉をいただきました。さすが出水小学校の高学年です。早速、集団宿泊教室での学びの成果を発揮してくれたようです。この水俣での学びもこれからの生活に活かしてほしいと思います。